



子供たちに「共助力」を

校長 松藤 朋治

11月10日（日）、本校にて地域防災訓練が行われました。この訓練はいずみ野小学校地域防災拠点運営委員会が主催して毎年11月に実施しているものですが、当日は約370名もの地域の方々が参加されました。

今年の訓練も、大地震後にご自宅が倒壊するなどして避難を余儀なくされた方々が避難所（本校の体育館）に避難することを想定した、いわゆる“発災型”で行われました。そして、避難者の受け入れに始まり、避難所での生活、夜間の投光器取扱い、煙の中での避難、移動式炊飯器を使った炊き出し、給水タンクからの給水、けが人の救助や救出、...

といった被災時に想定される様々なことに対応できるように、訓練が行われました。

避難所での生活を疑似体験してみると、いろいろなことに気が付きます。一例を挙げますと、トイレの問題です。大勢の人が避難してきた場合、「トイレはどうすればよいか。」という問題が必ず浮上します。さらに、どういう方を優先すればよいかといったことなど、派生する問題やその解決策も見えてきます。つまり、疑似体験することによって“見えないものが見えてくる”ようになるので、その結果、より最適な対策を講じることができるようになります。そういった点で、この“発災型”訓練は意義深いものと言えます。



▲ 仮設トイレの設置訓練。

また、別の面から見えてきたものがあります。それは、「助け合いの精神」です。当日は、各地区ごとに疑似体験を巡回したのですが、各地区のリーダーによる指示の下、声を掛け合いながら協力している姿が随所に見受けられました。私事ですが、東日本大震災で被災された方々のお力になればと、昨年閉鎖されるまでの数年間、夏休みを利用してある仮設住宅へ復興支援ボランティアに行っていました。その仮設住宅は自治組織がしっかりしており、皆が円滑に助け合っていました。本校で行われた防災訓練のときの雰囲気は、私が仮設住宅で感じた雰囲気ととても似ていました。避難所での生活に最もなくてはならないものは、この「助け合いの精神」（共助）ではないでしょうか。子供のうちから、助け合う力、つまり“共助力”を身に付けさせるべく、本校の子供たちを導いていきたいと考えておりますので、各ご家庭でも、地域でも、同じ歩調で取り組んでいただければ幸いです。どうぞ、よろしくお願いいたします。



▲ 煙の中を避難する体験。

【参考資料】 おいしかったジュース

（被災した小学5年生の作文より抜粋）

3月11日午後3時45分、津波警報が沿岸部で出て、まさかと思ったけれど津波がきてしまいました。（Y小の）屋上へ行くと、寒さで凍えている人がいました。（中略）

そしてその日は、毛布も何もなく、コンクリートに紙を敷いて、たまたま私はコートを着ていたので、それを友達と私の2人で着て寒さをしのぎました。

そして、朝方、日が出てきたときに、救援物資のジュースをもらいました。でもジュースは本数に限りがあり、2人で1本飲みました。その時のジュースは、今まで飲んだ中で一番おいしかったです。（中略）

5月に仮設住宅に行き、友達もたくさん出来て、楽しい生活をしています。